# Ⅴ　栄養教諭・学校栄養職員の食に関する指導への参画状況

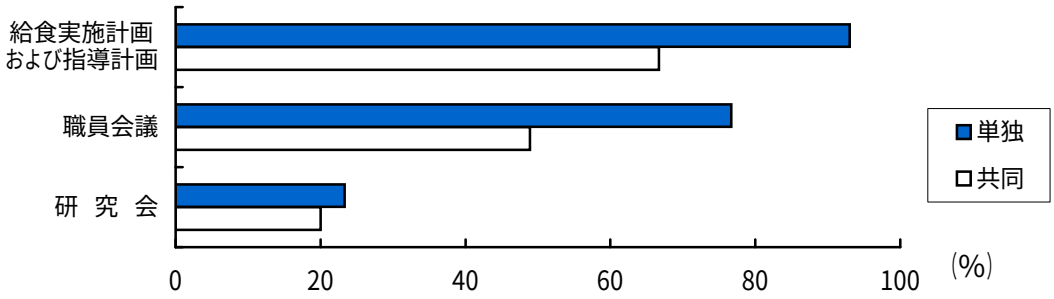
平成10年6月に教育職員免許法の一部改正が公布され、食に関する指導の充実を図るため学校栄養職員を特別非常勤講師として活用することが推進されることとなった。また、平成17年度より栄養教諭制度が創設され、本県においても平成18年度より栄養教諭が配置され、学校における食育を推進する上で大きな役割を果たしている。

食に関する指導を効果的に進めるためには年間指導計画に基づき、教職員の相互の連携を図るような指導体制を確立することが大切である。指導の効果を高めるためには、栄養教諭・学校栄養職員の専門性を生かした指導が行えるように配慮するとともに、家庭や地域との連携を図り、個に応じた指導を工夫する必要がある。栄養教諭・学校栄養職員は児童生徒の生涯にわたる心身の健康づくりを目指し、内容豊かな給食を提供するばかりでなく、食に関する指導の面でも学級担任等との協力により積極的に参画することが求められている。

報告対象は県立学校を含む栄養教諭と学校栄養職員88名である。給食実施計画や職員会議への参画率は上昇しているが、共同調理場を兼務している者の参画率はまだ約半数に留まっている。本務校である学校へ積極的に出向き、教職員と連携した食に関する指導に取り組むことが必要である。

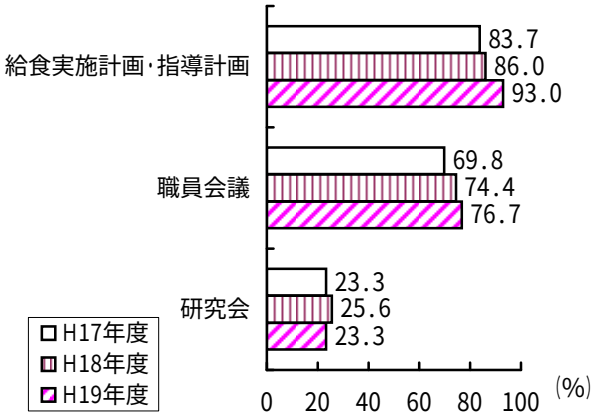
## １　基本計画への参画状況　（平成19年度）

| | 単独校勤務者 | | 共同調理場兼務者 | |
|---|---|---|---|---|
| | 人数(人) | 比率(%) | 人数(人) | 比率(%) |
| 給食実施計画および指導計画 | 40 | 93.0 | 30 | 66.7 |
| 職　員　会　議 | 33 | 76.7 | 22 | 48.9 |
| 研　究　会 | 10 | 23.3 | 9 | 20.0 |

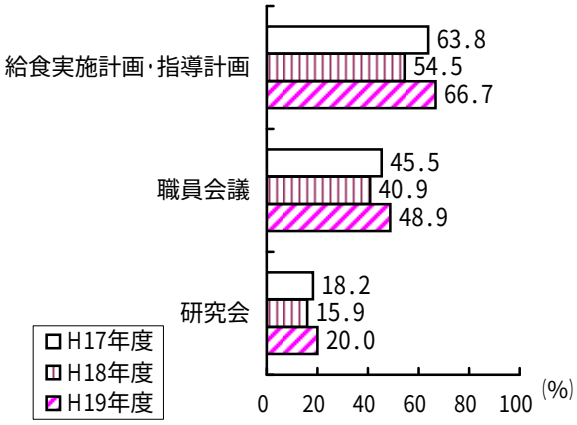



＜参画状況の推移＞

（単独校勤務者）



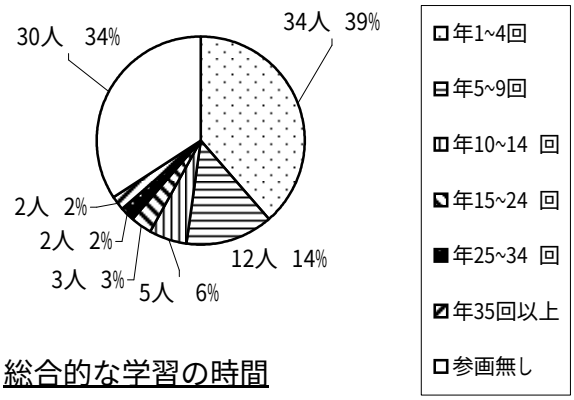

（共同調理場兼務者）



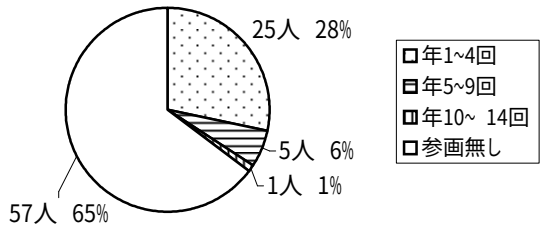
## ２　教科、総合的な学習の時間への参画状況　　（平成19年度）

栄養教諭・学校栄養職員の教科への参画状況は、家庭科、技術・家庭科が最も多く66%の教職員が指導を行った。体育科、保健体育科や総合的な学習の時間等においても、学級担任や教科担任等と連携をして積極的に取り組むことが望まれる。

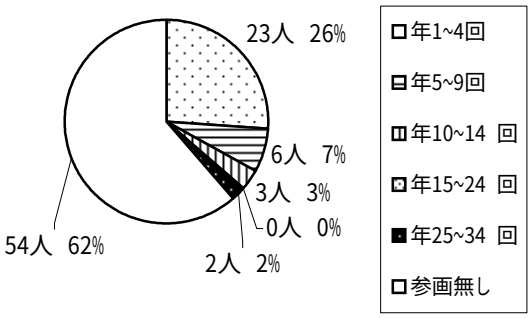
家庭科、技術・家庭科




体育科、保健体育科




総合的な学習の時間

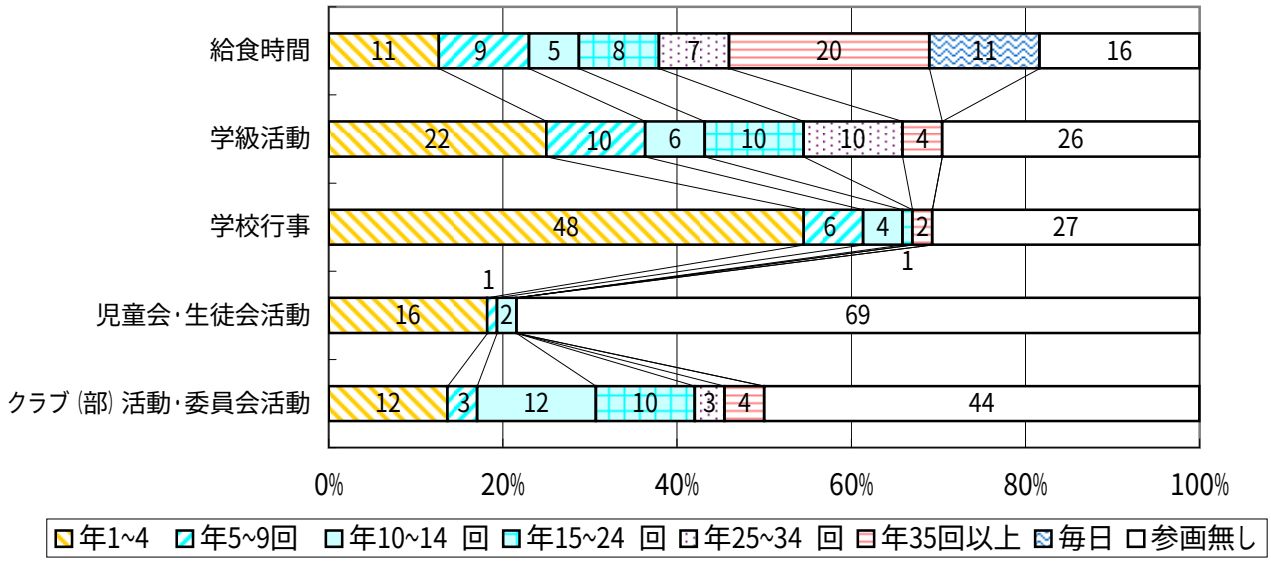



その他の教科

（人）

| | 年1～4回 | 年5～9回 | 年10～14回 |
|---|---|---|---|
| 生活科 | 7 | 0 | 1 |
| 社会科 | 3 | 0 | 2 |
| 理　科 | 2 | 0 | 0 |
| 国語科 | 2 | 0 | 0 |

## ３　特別活動への参画状況　　（調査人数８８人）

特別活動においては、給食時間への参画が最も多い。給食時間は、ねらいを持って作成をした献立が、実際にどのように食べられているのかを把握することができ、学校給食を生きた教材として使用しながら食に関する指導を効果的に行える時間である。年間約190回ある給食時間を有効に活用し、ねらいに沿った指導の充実が望まれる。

【グラフの中の数字は人数】